

サンゴ礁を守ろう！ みんなの手で

～オニヒトデ対策の「選択と集中」、そして協力を～



昨年から今年にかけて「美ら海を守れ」といった報道やキャンペーンを新聞やテレビなどで多く目にするようになりました。二十年ぶりにオニヒトデが大発生しているためです。当時は有効な対策が打てず、沖縄の美しいサンゴ礁は荒廃しました。

同じ轍を踏んではいけません。関係者は一致協力して効果的なサンゴの保全に乗り出しました。

過去の反省から出発した対策

近年、沖縄本島や慶良間諸島で大量に発生したオニヒトデが、美しいサンゴ礁を食い荒らしています。七十年代から八十年代初頭にもオニヒトデが大量発生し、県や市町村などが巨費を投じて対策を行いました。しかし守るべき海域を定めて徹底的な駆除活動を行わなかったため、効果が薄く、結局サンゴは壊滅状態に陥ってしまいました。

今回のオニヒトデの大量発生に対し、今度こそ有効な対策を行わねばなりません。昨年七月、国や県、市町村、学識経験者、漁業やダイビング業等の関係団体から構成されるオニヒトデ対策会議が結成されました。この会議では、過去の反省を踏まえ、「保全すべきサンゴ礁海域を

特定し、徹底した駆除を行う」という基本方針が確認されています。まさに「選択と集中」です。

これを受けて県では、オニヒトデ駆除事業を委託する際、地元漁民やダイバーの方々と「どの海域を守るべきか」について話し合いを行い、集中的にオニヒトデを駆除する海域を選定しました。

厳しい、海の「選択と集中」

慶良間諸島の海は、本島周辺離島の中でも特に美しいサンゴ礁海域で、沖縄本島へのサンゴの供給源になっているともいわれています。しかし、平成十三年末からオニヒトデの大量発生が始まり、県で駆除事業を実施したものの厳しい状況が続いています。

力しています。この海域の選定が、地元の方々にとって辛い決断であった事を忘れてはなりません。

距離のわからない マラソンへ、ご協力を

サンゴを少しでもいいから守りたいという方々が、今、懸命の努力を続けています。自分達の漁業区域外の海でオニヒトデ駆除を行っている、恩納村の漁民の方はこうおっしゃっています。「この海でもいい、自分達の力で美しいサンゴが残ればそれでいい。海人として、それを誇りにしたい」

県は、多くの団体や個人の連携強化をお手伝いします。情報提供や、こうした方々によるインターネットを利用した情報交換なども計画しています。

サンゴを守るには、より多くの方の協力が必要です。オニヒトデ発見の情報提供や各種の募金活動も重要です。ちょっとした努力、協力が沖縄のかけがえのないサンゴを守ります。

オニヒトデ対策は、距離のわからないマラソンをずっと走るようなものです。でも走るべき方向はわかっています。皆様も、オニヒトデ対策へ末永いご協力をお願いいたします。

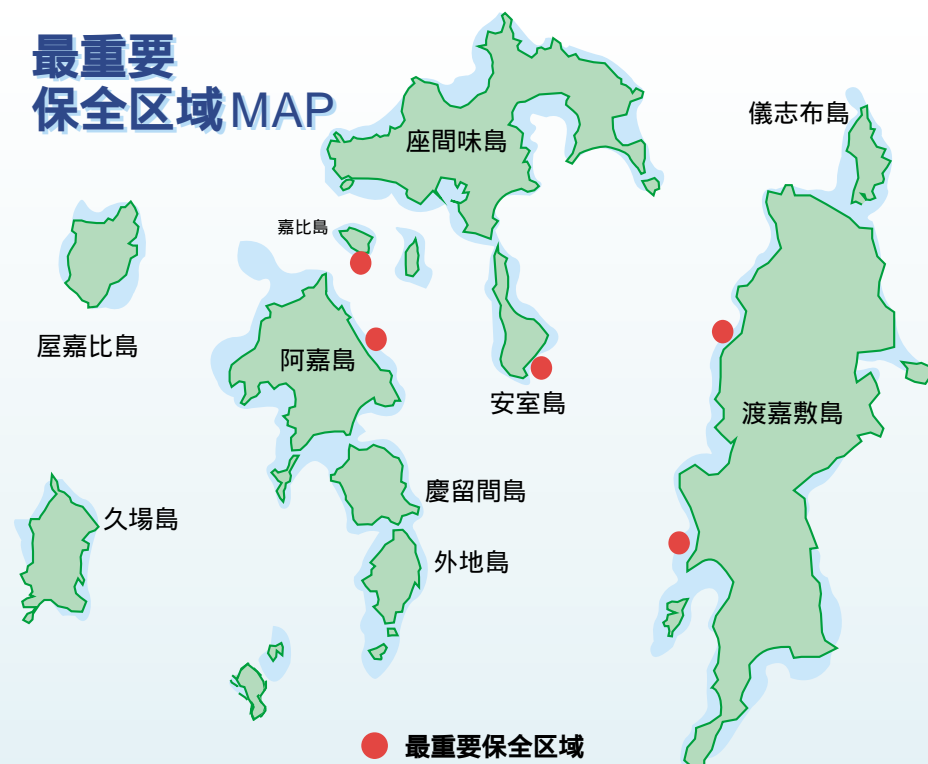


各地における意見交換会（石垣市）

そこで、実質的な最終防衛エリアとなる「最重要保全区域」の選定について地元の方々と話し合いがもたれました。何かを選ぶことは逆に何かを捨てることも意味します。慶良間には、まだ守るべき価値のあるサンゴ礁は数多くありますが、「冬場の荒れた海でどれだけ駆除活動ができるのか」等の現実問題から、選定された「最重要保全区域」はわずか五カ所でした。

選定された海域については、現在、毎日のように地元の方々が自主的に監視を続けているほか、那覇や中部のダイビング業者の方々も駆除に協

最重要 保全区域MAP



最重要保全区域とは

オニヒトデの食害から確実にサンゴを保全するため、優先的に駆除活動を行う区域を定めたもの。図中の5区域については、サンゴの生息状況が良好で、観光及び水産資源として価値の高さや継続的な駆除作業の難易度についても検討して選定されています。なお、同区域の選定は、関係者が共通の認識をもって保全活動にあたるように誘導することを目的としており、駆除の義務や立入の制限等の法的な拘束力を有するものではありません。

お問い合わせ 県自然保護課 TEL.098-866-2243 FAX.098-866-2240